

RIKKEISOFT

会社概要 **2025**

▶ 目次

1

03-09

Rikkeisoftについて

Rikkeisoft概要
株式会社リッケイ（日本法人）
創業者—の略歴
表彰・外部評価
事業内容

2

10-28

Rikkeisoftの対応力

Rikkeisoftの対応力
Rikkeisoftのリソース状況
採用活動：採用・育成・運用
マルチサイトでの対応
各部署の日本語対応リソース
品質保証・向上の取り組み
開発体制（案）

3

29-45

開発事例

大規模ラボ・大規模案件対応事例
要件定義から対応したオフショア開発
事例

01

Rikkeisoftについて

Rikkeisoft概要

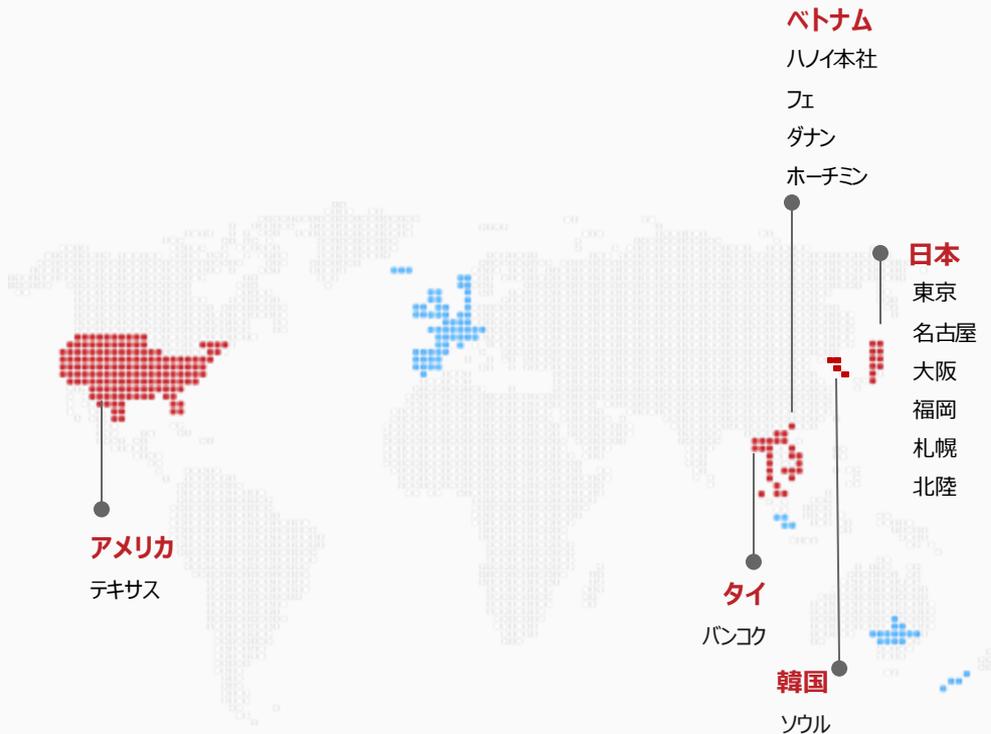
創業者—の略歴

表彰・外部評価

事業内容

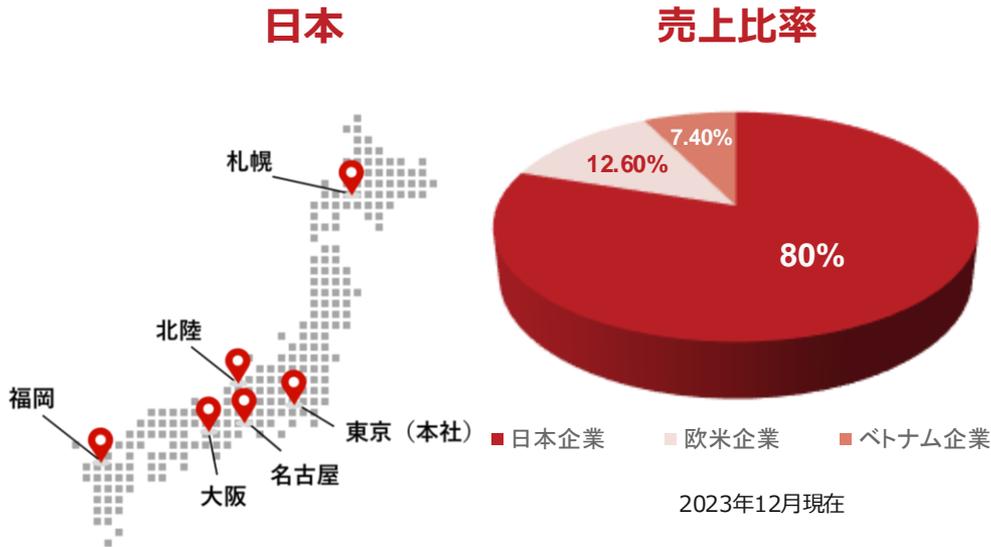
▶ Rikkeisoft概要

社名	RIKKEISOFT CORPORATION
設立日	2012年4月6日
資本金	6億円
代表者	代表取締役会長 タ・ソン・トゥン 代表取締役社長 ダン・タイ・ホア 取締役副会長 ブイ・クワン・ファイ
従業員数	2,368名（2024年12月現在） ※グループ全体
拠点	本社：ハノイ 支社：ダナン、ホーチミン、フエ
関連会社	株式会社リッケイ RKTech Rikkei Thailand Rikkei AI Rikkei Digital Rikkei Academy Rikkei Capital RKSoft



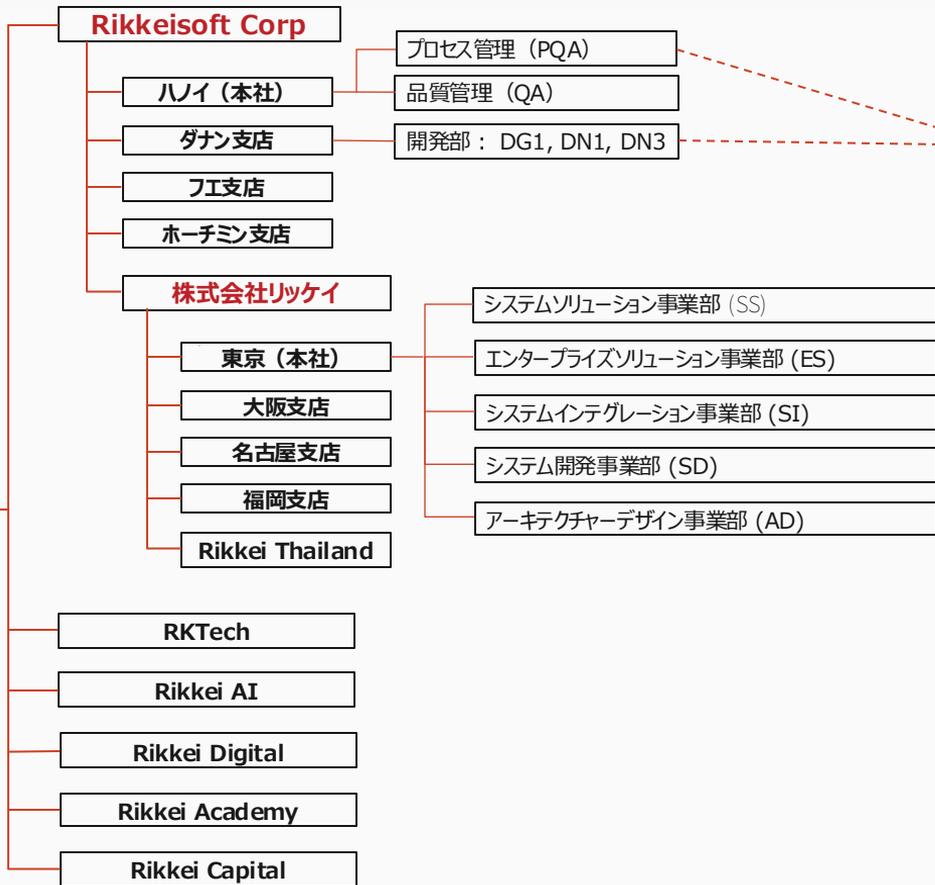
▶ 株式会社リッケイ（日本法人）

社名	株式会社リッケイ	
設立日	2016年3月1日	
資本金	2,888万円	
役員	代表取締役	ブイ・クワン・ファイ
	取締役副社長	グエン・クアン・キー
	副社長兼CRO	グエン・ティ・トゥ・ハン
従業員数	325名（2024年12月現在） ※日本人26名在籍	
拠点	本社：東京 支社：大阪、名古屋、福岡、札幌、北陸	



組織図

代表取締役会長
代表取締役社長
取締役会



開発事業部は業務や技術言語の強みごとに事業部を構築している。優秀なリーダーが各事業部をリード・管理を行っている。特に優秀なメンバーはテクニカルサポートチームに配属され、事業部全体の技術的サポートを行う。

今後は事業部を越えたCOE（センターオブエクセレンス）を配置し、特定分野に特化したチームを構築し、組織内の事業効率化や事業強化・拡大を目指して行きます。
例）ERP（SAP、Salesforce、Odo...）
クラウド（AWS、GC...）、Lowcode（Outsystems、Kintone、Kony...）



▶ 創業者の略歴



タ・ソン・トウン
Chairman of Rikkeisoft



ダン・タイ・ホア
CEO of Rikkeisoft



ファン・テ・ズン
Senior Vice President
of Rikkeisoft



ブイ・クワン・ファイ
Senior Executive Vice
President of Rikkeisoft
CEO of Rikkei Japan



グエン・クワン・キー
Deputy Director of Rikkei Japan
CEO of RIKKEI (THAILAND)



ダオ・タイン・チュン
Senior Advisor of Rikkeisoft

▶ 表彰・外部評価



品質管理 QMS
ISO 9001:2015



情報セキュリティ管 ISMS
ISO 27001:2022



CMMI Level 3取得



フォーブスベトナムの
TOP 30 UNDER 30



ベトナムのリーディング
ITアウトソーシング会社



日本マテリアルフロー
研究センター



情報サービス産業協会



2024年ベトナム優秀デジタル
技術企業トップ10



サオクエ賞



ベストベンチャー100

▶ 事業内容



オフショア開発

ウェブ、モバイルアプリ、金融・業務システム、ゲーム、組込、品質保証、CAD設計、運用・保守サービス、ERP、AWS、Salesforce、SAP



DX コンサルティング

- ・DXコンサルティング
- ・ソリューションの提供
- ・開発・保守サービス



革新的なテクノロジー

IoT(モノのインターネット)、クラウド、ブロックチェーン、AI(人工知能)、AR・VR



IT/エンジニア採用・育成

Rikkei Academy



製造



医療



メディア&
エンターテインメント



公共機関



物流



金融 (BFSI)



オートモーティブ



小売・Eコマース

02



Rikkeisoftの対応力

Rikkeisoftのリソース状況

採用活動：採用・育成・運用

各部署の日本語対応リソース

品質保証・向上の取り組み

▶ Rikkeisoftの対応力



リッケイソフトの従業員数：**2,368名**
今後10,000人達成を目標としている



- 幅広い開発プログラミング言語に対応できる
- 一人で複数の開発言語に対応できる要員も多い



日本語も英語も対応できる開発者が多い
(日本語能力試験**N3以上の保有者は社員の39%**)



- 12年以上のEC、アプリ、IOT、AI、金融、業務システム開発経験
- 様々な業務・技術の対応経験あり



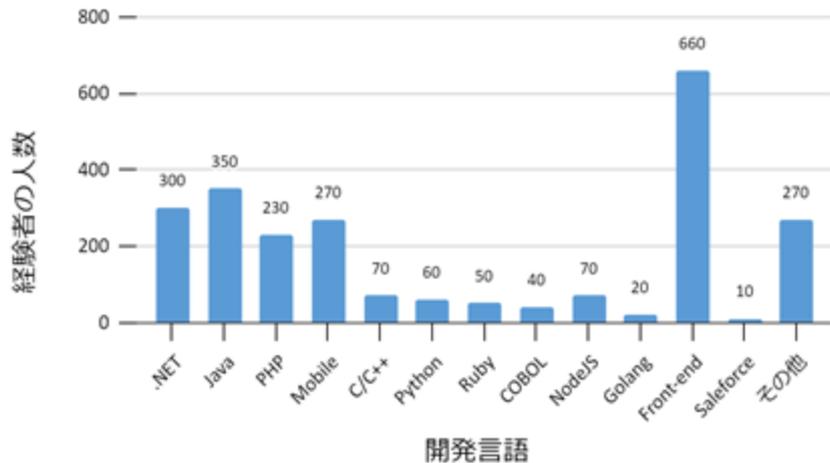
対応できる開発工程：

要件定義→基本設計→詳細設計→製造→システムテスト→デプロイ→運用

▶ Rikkeisoftのリソース状況

開発言語別人材

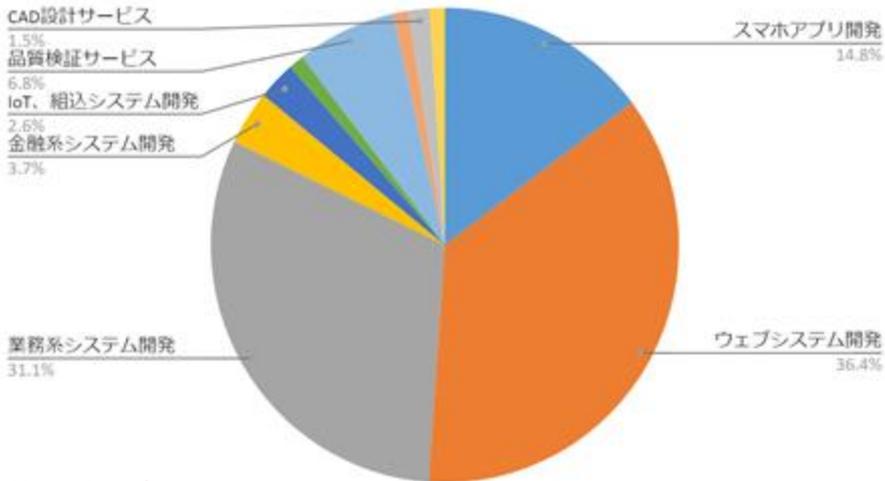
経験者の人数 vs. 開発言語



2024年12月現在

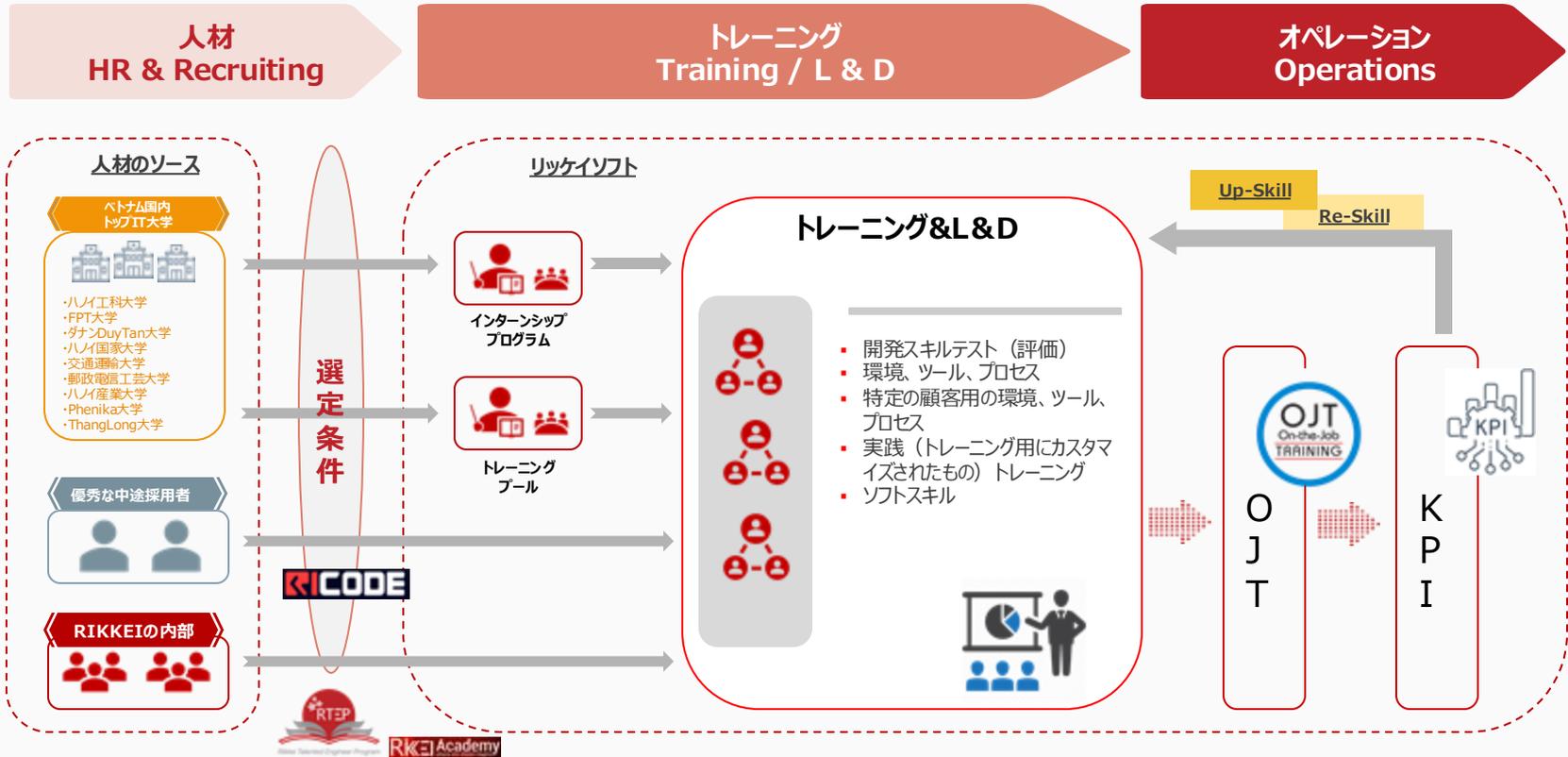
開発分野別人材

分野割合



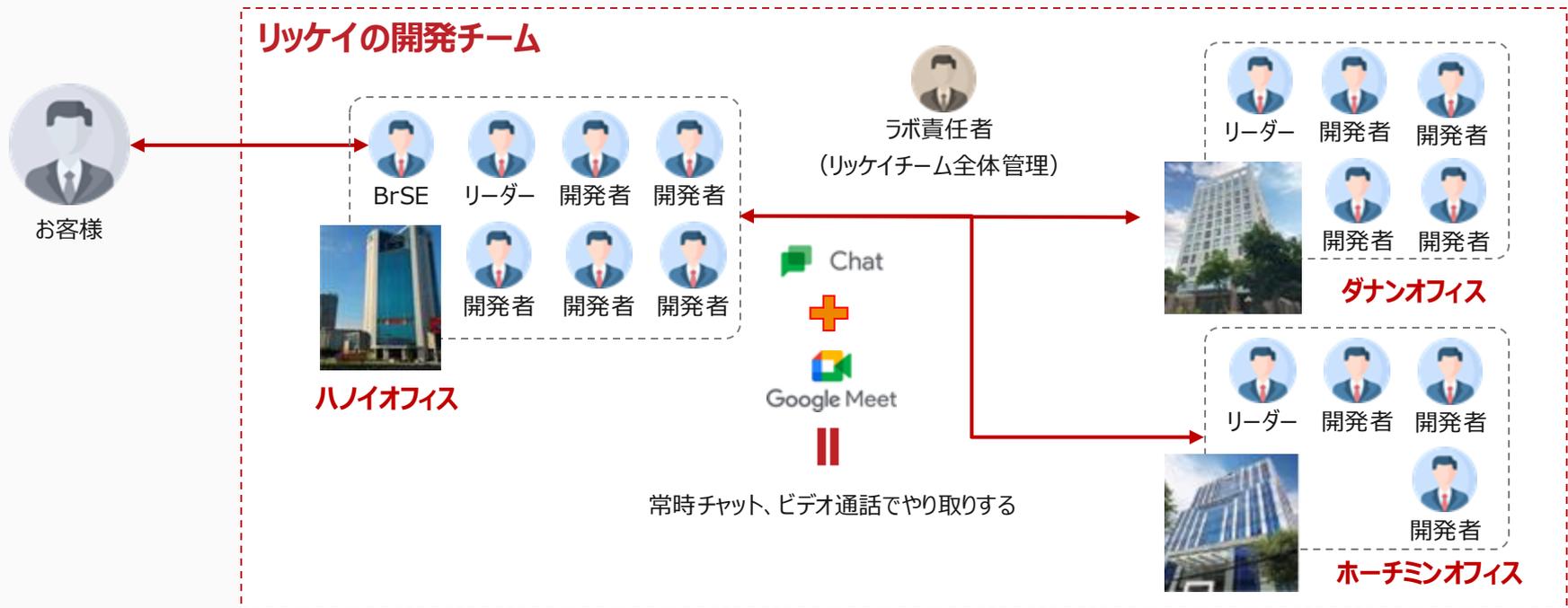
2024年12月現在

▶ 採用活動：採用・育成・運用



▶ マルチサイトでの対応

案件の規模が大きな場合、優秀なメンバーを調達するために、リッケイの各拠点から調整し、マルチサイトでの対応も可能



▶ 品質保証・向上の取り組み



継承

- パイロットフェーズの課題、成果を真剣に分析して**改善対策を策定**すること。
- 次のフェーズ開始前に**ノウハウを文書化**し、メンバー全員向け**教育計画を立てる**こと。

プロセス改善

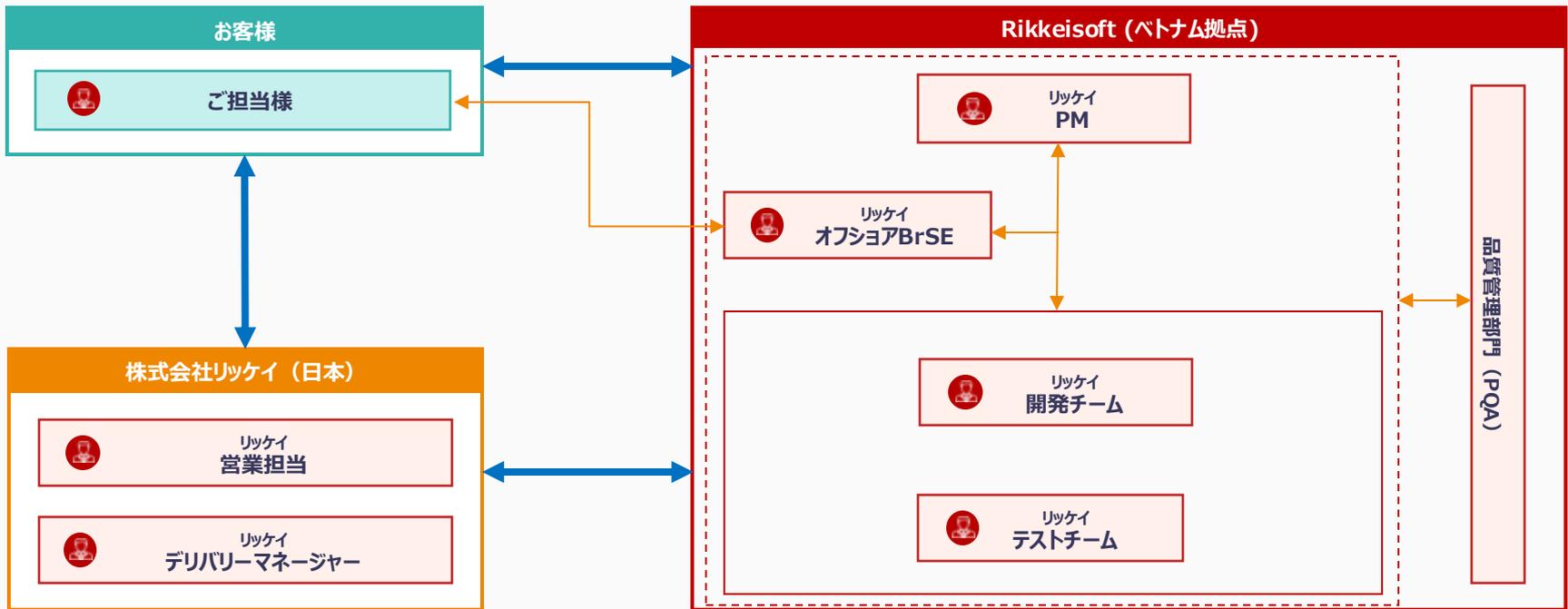
- プロジェクト実施中に**常に改善**すること。
- 各フェーズ完了、または課題等発生の際に、**分析・評価・対策**を検討すること。
- メンバーによる**改善提案を奨励**すること。

品質向上

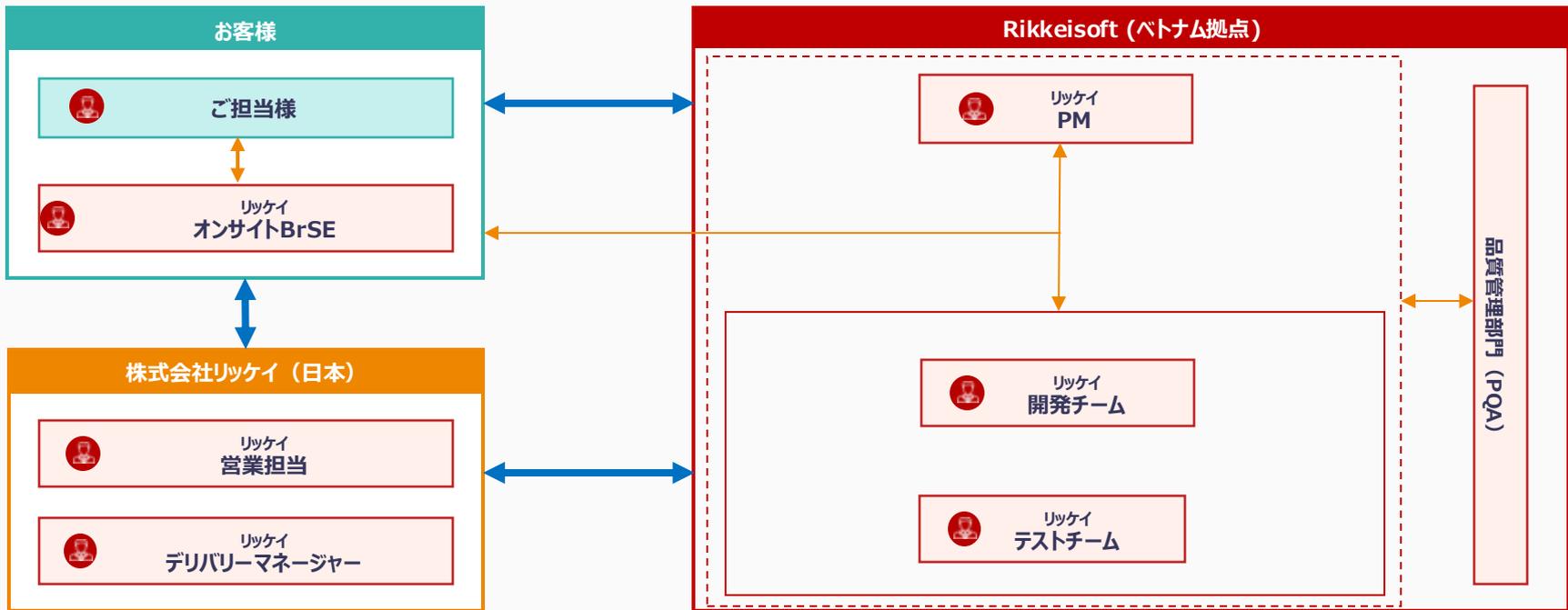
- メンバー全員がプロジェクトへの参加時に、**作業プロセス、ツール、パターン、標準書類**について**教育**を受けること。
- 以下の**厳重なレビュープロセス**を適用すること。
 - ・ 担当者はレビューチェックリストに従いすべての成果物を自己レビューする
 - ・ ノウハウのあるチームリーダーはすべての成果物をレビューする
 - ・ 品質保証担当は納品前にすべての品質保証プロセスが遵守されていることを確保する
 - ・ 品質保証担当は納品前に成果物をランダムにレビューする
 - ・ 品質保証担当は成果物が納品できるか決定する人である



▶ 開発体制（案） パターン①：オンサイトなし



▶ 開発体制（案） パターン②：オンサイトあり



▶ 契約形態

契約形態として主な2つの種類を提供している。

ラボ開発

お客様専属のエンジニアを用意し、**一定期間契約**を結ぶタイプ

〈特徴〉

- ・仕様を柔軟に変更したい案件向き
- ・仕様変更があった場合に対応しやすい



請負開発

お客様に仕様を固めていただいて、工数を見積もったあとにシステム開発するタイプ

〈特徴〉

- ・作りたいものが明確で、**小型案件向き**
- ・リクエイに納品や管理の責任が生じる



▶ セキュリティの基準

日本国内企業と同等の高セキュリティ

2015年6月2日付けで、情報セキュリティマネジメントシステムに関する国際規格ISO 27001の認証を取得した
日本国内の企業と同等の高セキュリティな環境をもとにお客様にサービスをご提供する



ネットワーク管理

- ・専用回線で接続
- ・インターネットアクセス制限設定
- ・OS & ウィルスソフト強制アップデート
- ・OSDC専用の仮想LAN設定(オプション)

操作管理

- ・USBポート無効化
- ・画面自動ロック(15分)
- ・PCパスワード強制変更ポリシー
- ・データサーバーアクセス制限設定

作業場所管理

- ・プロジェクト毎に作業スペース分離
- ・入室制限
入室履歴管理
施錠管理
- ・機器持込制限
私有カメラ・PCの持込禁止

機器管理

- ・OSDC管理者が全機器の持出を管理
- ・全機器のワイヤロック
- ・機器・データ・資料のOSDCからの持出禁止
- ・定期的な運用監査

ドキュメント管理

- ・納品物は圧縮化、パスワード保護
- ・データは自社サーバーで保管
- ・添付ファイル付Eメールのウイルスチェックと暗号化徹底
- ・紙面の機密資料はシュレッダーにて破棄
- ・OSDCから機密資料持出禁止

▶ セキュリティの基準

No.	項目	内容
1	入退館管理	<ul style="list-style-type: none"> ・社内では機密情報を取り扱う場所を指定し、仕切っている ・出入口は常時施錠し、セキュリティを確保し、長い休みの場合、出入口を施錠・封印している ・社内/ラボ室への入室許可の無い人は入室できないようにしている ・社内/ラボ室入室許可者について、入室制限者管理を実施している（電子鍵システム管理） ・社内/ラボ室入室許可者以外について、入退室が必要な場合、社員/ラボメンバが付き添いしている
2	<ul style="list-style-type: none"> ・社内撮影 ・録音 ・通信管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・社内の許可がある場所以外は、撮影および録音は禁止にしている ・ラボ室内に録音機器及びメモリ等の記録媒体を持ち込むことを禁止し、撮影および録音は禁止にしている ・業務上、ラボ室へ個人のPCを持ち込む場合、事前に管理部署へ申請/許可を行っている
3	情報機器管理 (PC、USBメモリ、 デジタルカメラ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・PCには指定されたソフトウェア以外の導入をしないように管理を行っている ・セキュリティワイヤーによるPCの施錠を行っている ・USBメモリは会社指定（パスワード設定、暗号化の出来るもの）の機種を利用し、それ以外の使用は禁止にしている ・社内/ラボ室の情報機器を社外/室外に持ち出す場合、管理部署への事前申請及び承認をもって行っている ・ウイルス対策ソフトを導入しパターンファイルを最新にしている ・ハードディスクのウイルススキャンを定期的の実施しウイルスの検知・削除を行なっている ・OSやアプリケーションのセキュリティパッチ(修正プログラム)のルールと手順を明確にし、実施している ・個人の情報機器・カメラ・録音機器をラボ室で使用する事を禁止している ・個人のPCを持ち込み、ラボ室に設置及びネットワーク接続をする場合、管理部署へ事前の申請/許可を行っている

▶ セキュリティの基準

No.	項目	内容
4	情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・許可を受けた人以外、PCでのCD、DVDへのデータ書き込みを禁止している ・オンラインファイル共有サーバ（github etc）などへのアクセスを不可にしている ・社員以外のネットワークへの接続制限を行っている ・取引先より機密情報の開示要求があった場合、管理部署への申請／承認を行っている ・各種システム・ファイルサーバのアクセス権限について管理を行っている ・PCログイン、メールのログインパスワードは定期的に変更している ・PCなどの端末を長時間、離れる場合にパスワードロックを掛けている。（スクリーンセーバーでのロックも可） ・顧客より入手したデータ保管ルールを決めている ・個人のPC・情報機器に顧客情報（電話番号、メールアドレスetc）の登録、機密情報（データ）の複製を禁止している
5	メール使用管理	<ul style="list-style-type: none"> ・機密情報をメールで社外に送信する場合のルールを決めている ・個人のPCや個人携帯電話にメールで機密情報を送付する事を禁止している ・社外に送信するメールに機密情報を添付する場合、パスワード付きで添付している ・私用でのメール使用を禁止している ・Webメール(Yahooのhotmail等)の使用を禁止している
6	教育、意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティに関する意識付け活動を実施している。（機密管理月間、職場点検など） ・定期的に（3ヶ月に1回）情報セキュリティに関する教育及び試験を実施している ・情報セキュリティの意識／教育について検証するために意識調査／職場監査を実施している

▶ 開発環境

お客様のセキュリティレベルによって、開発環境の合わせを実施する。

下記のパターンでの実績：

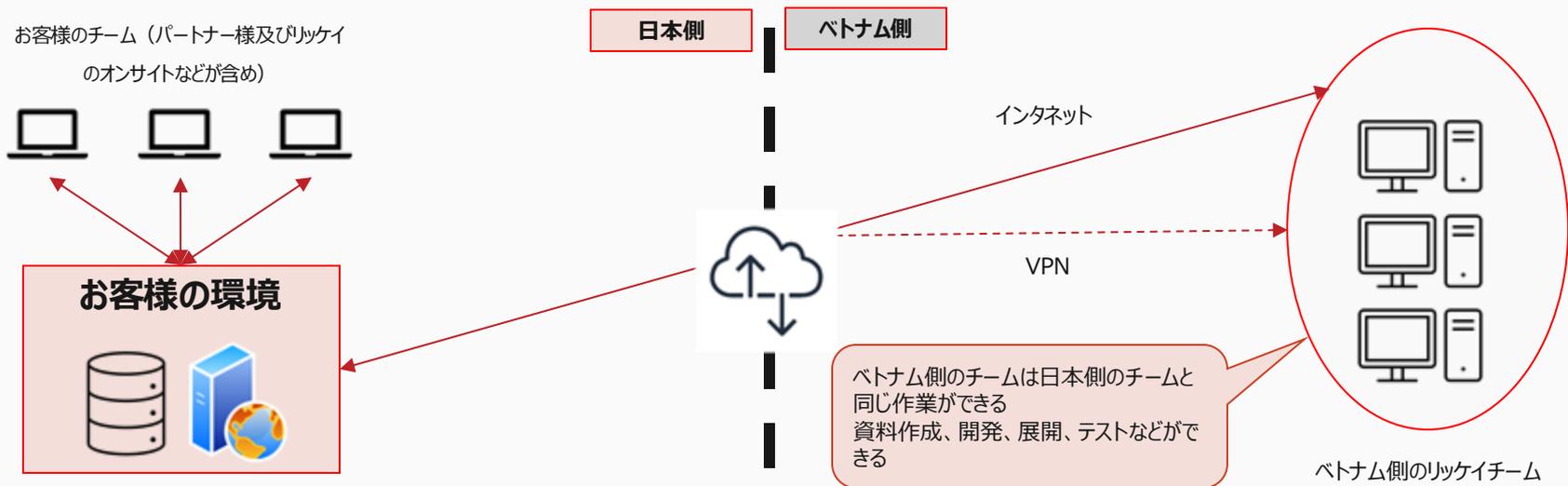
1. 日本側とベトナム側は共同環境で作業できる
2. 日本側とベトナム側は別々環境で作業する
3. 日本側に置いた端末の経由で作業する

※ お客様のご希望によって、セキュリティ考慮した上で、別途の環境構成の提案も可能になる。

▶ 開発環境

1. 日本側とベトナム側は共同環境で作業できる

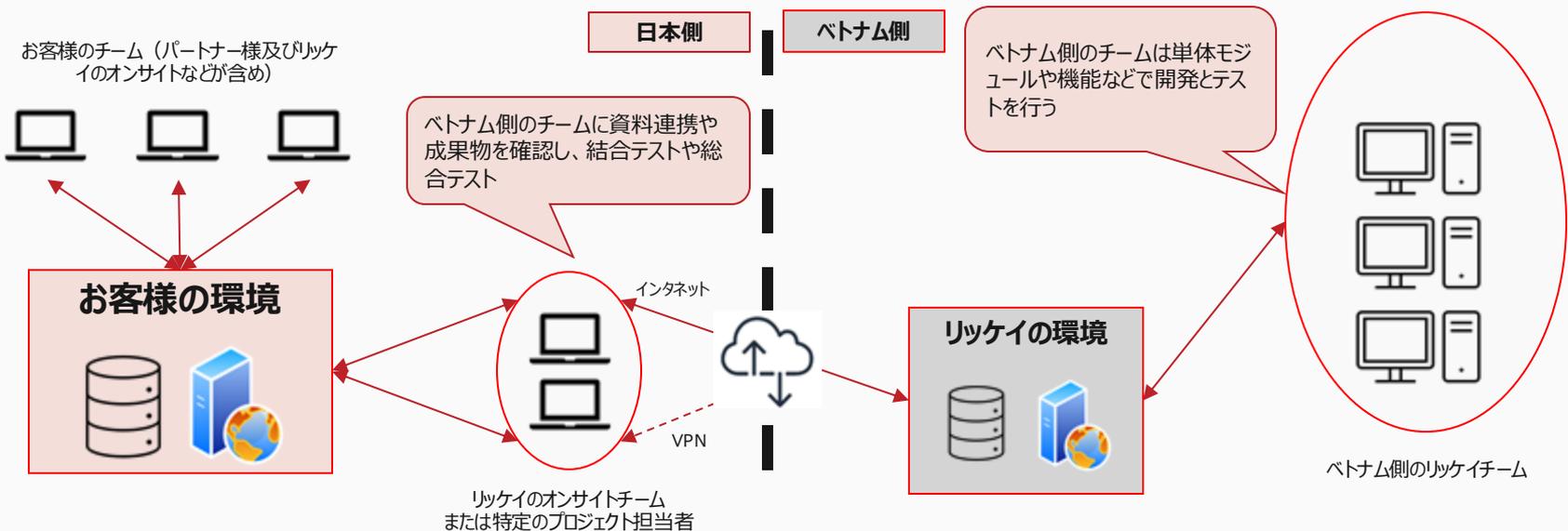
⇒ セキュリティ高いですが、インターネットまたはVPN接続の経路で海外からでもアクセスできる。こちらのパターンでは、直接にベトナムチームからお客様の環境にアクセスでき、開発・テスト・資料の確認などは素早くできる。



▶ 開発環境

2. 日本側とベトナム側は別々環境で作業する

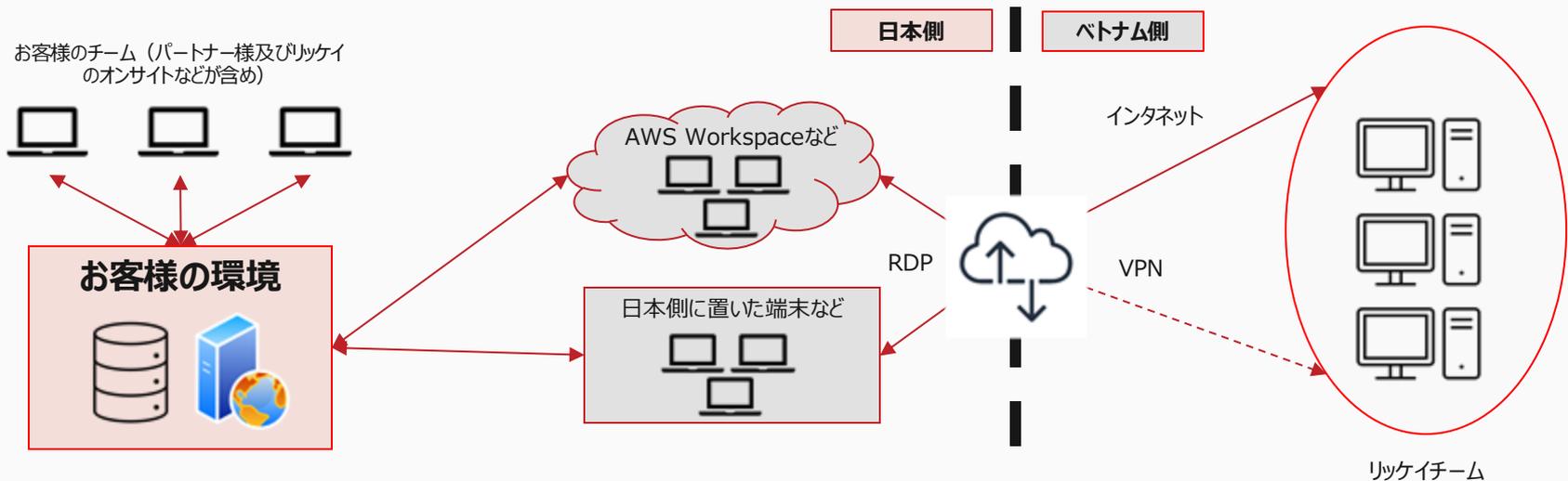
⇒ セキュリティ高く、ベトナム側のチームがお客様の環境にアクセス許可しなく、お客様の環境の資産が確保できる。
ベトナム側のチームで別々開発環境で開発及びテストを行う。



▶ 開発環境

3. 日本側に置いた端末の経由で作業する

⇒ セキュリティは高く、海外にデータ流出防止でき、タイムラグが発生する可能性があるが、チームに専用回線を利用し、発生率が低く制御できる。



03



開発事例

I. 大規模ラボ・大規模案件対応事例

II. 要件定義から対応したオフショア開発事例



I. 大規模ラボ・大規模案件対応事例

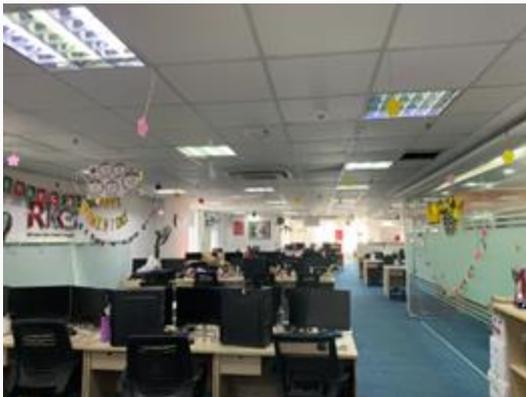
▶ S社のオフショア拠点立ち上げ

■ 背景

- 日本のSI企業であるS社は、2013年に大規模案件があり、長期的に対応できる体制が必要
- S社の人材が不足して、オフショア開発拠点立ち上げのご要望をいただいた

■ 現状

- 2013年にS社向けのラボを構築し、S社の数多くの案件に対応しながら、オフショア拡張計画を策定・実施
- ラボの規模：120名以上（ピーク時）



ラボ室内



指紋認証システム

▶ S社のオフショア拠点立ち上げ

■ 案件対応事例



IT経営を促進する
クラウドデータベースシステム

開発：2013/7～2016/12
保守：2017/1～現在
チームサイズ：30～40名



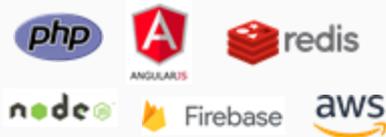
企業向けのカレンダー管理
クラウドシステム

開発：2017/9～2020/3
保守：2020/4～現在
チームサイズ：10名



次世代
リソースマネジメント・サービス

開発：2019/3～2020/4
チームサイズ：8名



製造業向け受発注
マッチングプラットフォーム

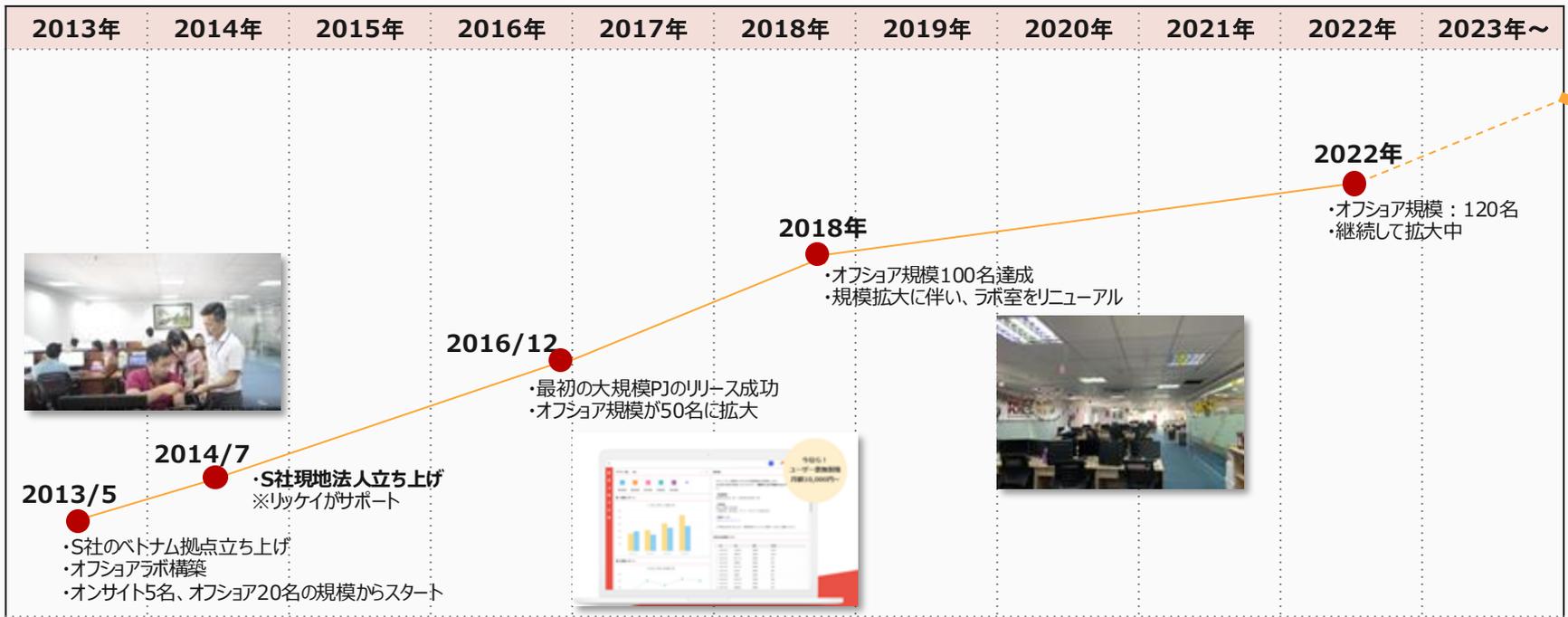
開発：2020/12～2021/5
保守：2021/6～現在
チームサイズ：15名



※その他様々な案件に対応している。

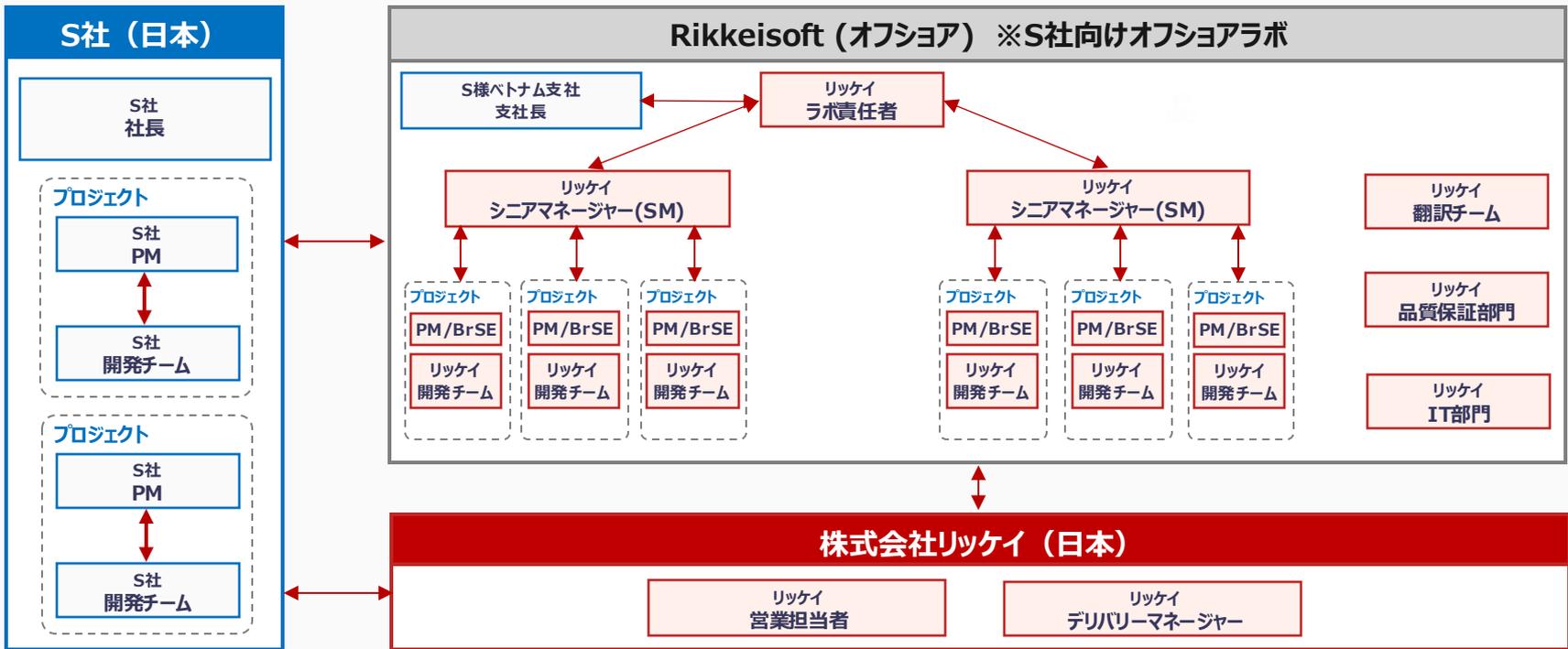
▶ S社のオフショア拠点立ち上げ

■ タイムライン



▶ S社のオフショア拠点立ち上げ

■ 現在の体制



▶ S社のオフショア拠点立ち上げ

■ ラボの運用



S社様ベトナム支社の支社長がRikkeisoftのオフショアラボ内で作業し、Rikkeisoftのラボ責任者と協力、案件状況をフォローし、オフショア拡張計画の策定・実施



毎週、S社様-Rikkeisoftの定例会を実施し、各案件の状況を報告し、課題や増員・減員計画予定などについて相談



品質保証部門担当者（PQA）が各案件の品質状況を監視し、各案件のPMおよびラボ責任者と協力し問題検出・問題解決



ラボに入る時のトレーニング実施：
セキュリティルール、開発プロセス、日本人の働き方（時間厳守、報連相など）、その他ルール

▶ U社のオフショア拠点立ち上げ

■ 背景

- U社は、日本のスーパーマーケット事業を管理・運営している会社である。
- U社は、インドネシアの某IT企業と協力していたが、品質問題が多発しており、U社の大きな損失につながったため、その他のベンダーにシフトするご要望をいただいた。

■ 現状

- 2020年より、Rikkeiチームは要員を調整し、U社の案件に対応
- チーム規模：110名以上（ピーク時）



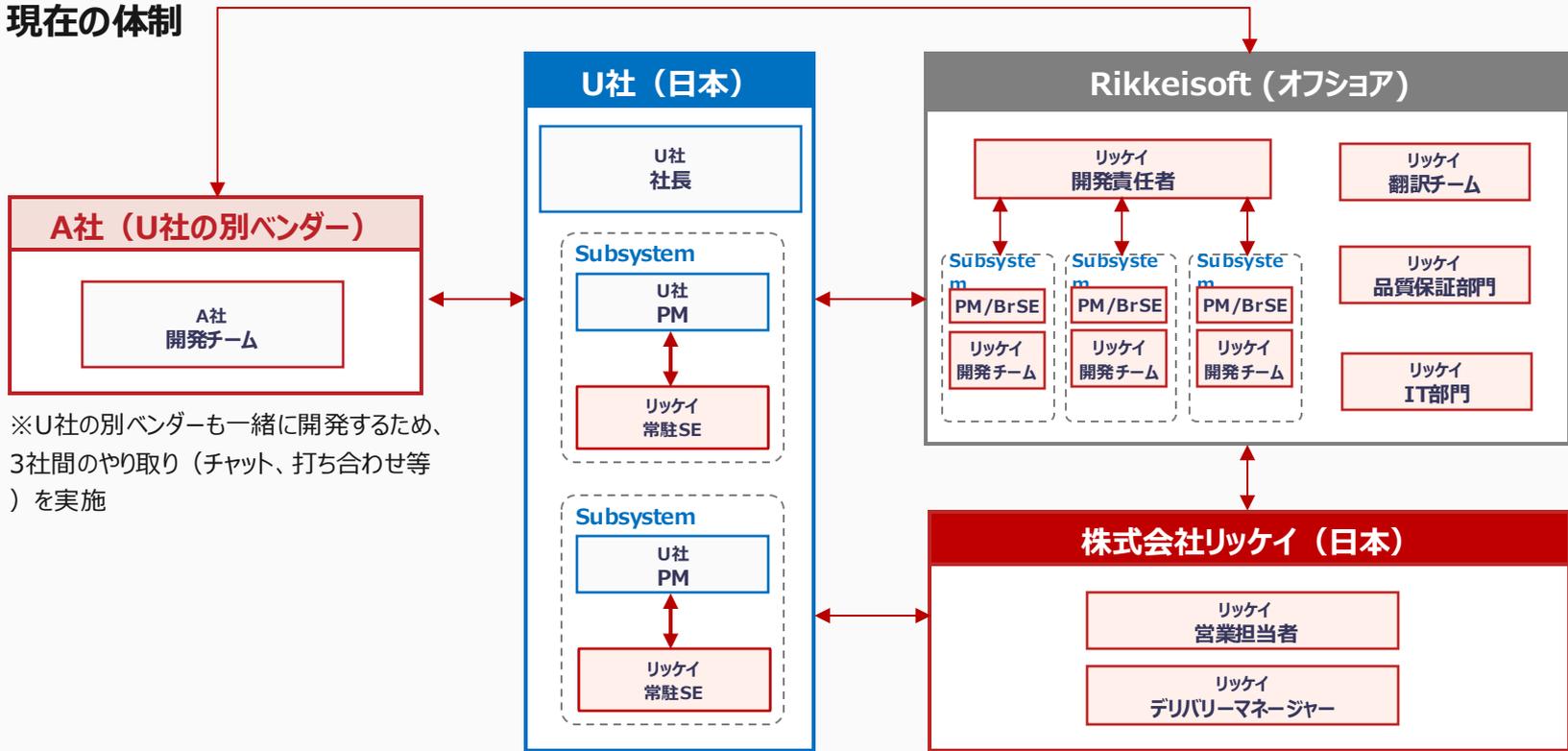
▶ U社のオフショア拠点立ち上げ

■ 案件対応事例



▶ U社のオフショア拠点立ち上げ

■ 現在の体制



※U社の別ベンダーも一緒に開発するため、3社間のやり取り（チャット、打ち合わせ等）を実施

▶ U社のオフショア拠点立ち上げ

■ ラボの運用



別ベンダーも一緒に開発するため、作業がスムーズに進めるよう3社間のやり取り（チャット、打ち合わせ等）を実施し、情報共有する



品質保証部門担当者（PQA）が各案件の品質状況を監視し、各案件のPMおよび開発責任者と協力し問題検出・問題解決



案件業務が複雑なため、一部のメンバーがお客様の作業場所で常駐し、お客様と直接やり取り
毎週、案件業務の社内勉強会を実施



案件規模が大きく、他社含めて複数のチームが開発に参画するため、全員が仕様を正しく理解するよう、ノウハウ資料（Wiki）を残し、情報共有を徹底する
仕様伝達漏れや繰り返し質問が発生しないよう、Q&A表で全ての確認事項を管理し、チームに内容共有

▶ 大規模案件対応の課題点・リッケイの取り組み

No.	カテゴリ	課題点	リッケイの取り組み
1	管理・プロセス	同時に多くの案件に対応する場合、全体状況が把握しづらい	<ul style="list-style-type: none"> 責任者をアサインし、お客様の全ての案件の責任者として、各PMと協力し各案件を全体管理する 毎週、PM打ち合わせを実施し、各案件のPMが責任者に案件の進捗状況、課題等を報告する 案件数が多い場合、SM（シニアマネージャー）も追加し、各SMが5件程度の案件（50名程度）を全体管理する
2		大規模案件の場合、業務の進め方の標準化が難しい	<ul style="list-style-type: none"> 案件開始時に、各種プロセスやルール（コーディングルール、チェックリスト等）を定義・カスタマイズし、メンバー全員に展開する 品質保証部門担当者（PQA）がフォローし、プロセスに従って案件遂行していることを確認する
3		大規模案件の場合、要件の管理が難しく、要件の管理不足や認識齟齬により受入テストで不具合が多発することがある	<ul style="list-style-type: none"> 複数のPhaseに分けて対応し、各Phaseの対応範囲、マイルストーンを計画する すべての要件を資料化し、お客様と認識合わせしてから対応する 仕様変更内容を表で管理し、お客様と認識合わせする
4	コミュニケーション	大規模案件の場合、チーム内のコミュニケーションがスムーズにいかず、仕様の誤解が発生しやすい	<ul style="list-style-type: none"> 重要な内容はチャットツールを利用し、メンバー全員に周知する 定期的に勉強会を実施する 案件のノウハウ、ナレッジをWikiにまとめて、メンバー全員が確認できる タスク着手前に、チームメンバーがチームリーダーと認識合わせを行う
5	人材調整	短期間で数多くのメンバーを調整することが難しい	<ul style="list-style-type: none"> 他の部署や拠点でマッチング人材を探し、マルチサイトに対応する 人材プールを用意し、事前トレーニングを実施する
6		体制（特にコアチーム）を維持する必要がある	<ul style="list-style-type: none"> 様々なリテンション対策を実施する 社内勉強会を実施し、バックアップメンバーを用意する 要員交代が発生する時、要員交代プラン・前任者と同等のスキルを持っている要員を準備し、引き継ぎを実施する。開発責任者や開発事業部長もフォローする

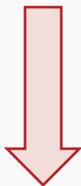


II. 要件定義から対応したオフショア開発事例

▶ 注文一元管理システム

お客様の課題

飲食店がUber Eats, DiDi, menu, Woltといったデリバリーサービスを利用しているが、各デリバリーサービス毎に別の管理用端末が必要
→タブレット購入費用が高く、業務も煩雑



各デリバリーサービスの管理機能を1つの端末に集約するシステムを、
要件定義から運用・保守まで、オフショアで対応

お客様概要



日本の飲食店運営等を行う会社

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食店の運営 ・ フランチャイズ加盟店の募集、運営指導 ・ ブランド・商品開発 ・ フードデリバリー
------	---

ブランド数	100+
-------	------

レストラン数	4,000+
--------	--------

従業員数	200+
------	------

▶ Rikkeiのソリューション

① 要件定義 (1ヶ月)

Rikkeiの要件定義チーム (6名) が、お客様とチャットやビデオ通話でやり取りし、要件定義を実施

- 各機能の処理を提案・明確化し、要件定義書にまとめる
- 各画面のワイヤーフレーム、UI/UXを作成する

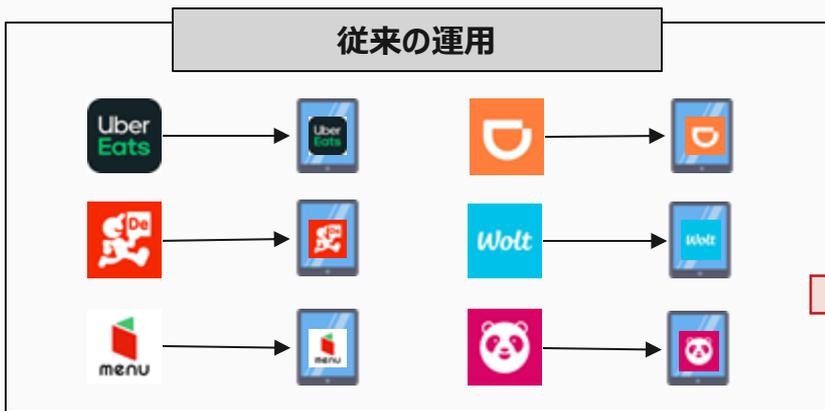
② 設計・開発 (6ヶ月)

開発チーム (30名) がシステムを設計・開発

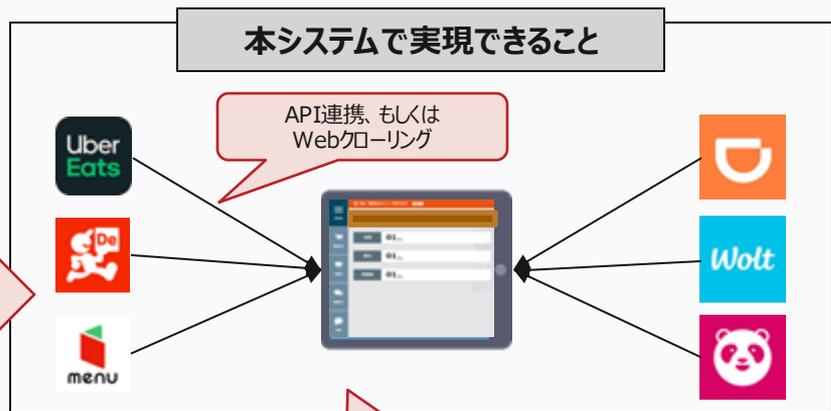


③ 運用・保守

- ・現在、システムがリリースされている
- ・3名チームで運用保守中



6つのデリバリーサービスなら6台のタブレットが必要。
端末購入費用が高い上に、業務が煩雑。



1つのアプリに全てを集約し、
業務を効率・簡略化。
売上、評価等の集約も可能。

▶ システム構成図



▶ 要件定義対応のポイント

No.	カテゴリ	要件定義対応時の課題点	解決策・ポイント
1	要件定義の進め方	お客様の当初の依頼内容は課題内容および簡単な要望内容（テキストベース）しかなかったため、要件を明確にしないと設計を着手できない。 また、要件を明確にするのに高い提案力が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初、システム構成図を作成し、お客様に提案することで、システムの全体イメージを認識合わせする。 ・ その後、各画面のワイヤーフレーム、UI/UXデザインをFigmaツールで作成し、お客様に共有しながら、各機能の要件について相談する。要件内容を要件定義書にまとめる。
2		お客様が早めにシステムを導入するご要望があるため、優先順位を決めて、重要な機能から開発する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各機能の優先度を検討し、お客様にフェーズ分けの対応を提案する。 ・ 重要な機能を最初の1ヶ月で要件定義し、残りの機能は開発を進めながら、引き続き要件定義・設計する。
3		要件定義内容を資料に残しても、認識齟齬が発生する可能性がある。特に文字だけの資料だと、内容把握が難しく、お客様と共通の認識を持たない場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認識合わせ用の資料は文字ではなく、なるべく図形やワイヤーフレームなどで、わかりやすく説明することで、認識ずれを回避する。 ・ 業務フローや画面遷移図を作成し、全体的なシステムイメージを誰でも把握できるようにする。画面内の処理（ボタン押下時の処理など）もワイヤーフレーム内で説明する。 ・ DB設計はER図を中心にして説明する。
4	技術的な難易度	<p>外部システムと連携する処理が多い（例：注文通知・受理・拒否・キャンセル、調理開始・完了、商品切れ設定、営業・休業時間設定など）。</p> <p>それらの機能の実装方法について調査する必要がある。また、機能によっては、デリバリーサービスがAPIを提供しないことがある。</p> <p>実現不可能な機能を要件定義してしまうと、開発段階で手戻りが発生するリスクがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ BA（ビジネスアナリスト）とBrSEだけでなく、開発エキスパートも要件定義フェーズから案件に参画し、各機能の実現可否や実装方法について調査する。また、効率的な実装方法をチームおよびお客様に提案する。 ・ APIが提供されていない機能についてはWebスクレイピングで実現するか、各デリバリーサービスの技術担当者と相談して対応方法を定める必要がある。 ・ 開発段階でも、毎週各デリバリーサービスとの定例会を実施し、技術課題などについて相談する。
5	コミュニケーション	リモートで要件定義するため、コミュニケーションのリードタイムが多発する。確認しないと進まない部分が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認事項をGoogle Sheetsにまとめて、リアルタイムでお客様と共有する。急を要する確認事項に関しては、スプレッドシートに記載後、チャットツールでお客様に通知する。 ・ 週3回、固定時間でお客様との定例ミーティングを設定し、定例ミーティングでまとめた確認事項についてお



Rikkeisoft Corporation

本社:

- **ハノイ** 21st floor, Handico Tower, Pham Hung St., Nam Tu Liem Dist

オフィス:

- **ダナン** 7th Floor & 11th Floor, VietNam News Agency Building, 81 Quang Trung St., Hai Chau Dist
- **ホーチミン** 7th Floor Maritime Safety South Building, 42 Tu Cuong St., Ward 4, Tan Binh Dist
- **フエ** 62 To Huu, Xuan Phu



株式会社リッケイ

本社:

- **東京** 〒108-0014 東京都港区芝4-13-4田町第16藤島ビル3階

オフィス:

- **大阪** 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀2丁目1-1 江戸堀センタービル18階
- **名古屋** 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-20-17 KDX桜通ビル2F
- **福岡** 〒812-0014 福岡県福岡市博多区比恵町1-18東カン福岡第2ビル417号室
- **札幌** 〒001-0010 北海道札幌市北区北十条西3丁目23-1 THE PEAK SAPPORO1F
- **北陸** 〒920-0031 石川県金沢市広岡3丁目1-1 金沢パークビル8階



RIKKEI (THAILAND) CO., LTD.,

本社:

- **バンコク** Ramaland Building, No. 952 Rama IV Road, Khwaeng Suriyawongse, Khet Bangrak, Bangkok



RKTECH CORP.

本社:

- **テキサス** Preston Park Towers West, 4975 Preston Park Blvd, Suite 505, Plano, Texas



ありがとうございました。

www.rikkeisoft.com/ja